



図10 大気開放・交差汚染の盲点
血液回路の準備には、一瞬の大気開放が多くあり、交差汚染の盲点となります。
日本医療器材工業会：血液回路図一部改変



図11 静脈側エアトラップチャンバー：液面調整の取り扱い注意！

CR 下で行う操作です。

ここで、瞬時の大気開放操作とは、滅菌済みの密閉された医療資材を開封して扱う時に、一瞬室内の空気に触れることをいいます。シングルユースの滅菌物であるダイアライザ、血液回路、穿刺針、注射器、注射剤、輸液などを扱う

際、交差汚染させないためには、スタッフの清潔操作の手腕に懸かっています（図10）。とくに留意すべき点として、血液回路の静脈側エアトラップチャンバーの液面調整を行う際に、浮遊菌であふれる室内空気を直接使用してはいけません。必ずエアフィルタを通した空気を使用します（図11）。これらの手技そのものだけでなく、環境整備として透析室での発塵抑制と除塵、すなわち清掃は強化してください。ホコリとともに微生物は存在しますので、透析治療ベッド周りは必ず透析セッションごとで日常清掃としてください。可能であれば、パーティクルとともにウイルス感染対策も視野に入れ空気清浄機の設置を推奨します。

また、感染制御学上のキャップ・マスク・グローブ使用の標準防護策は、発塵抑制にもなります。とくにマスクは顔、キャップは髪の毛を無意識に触れることを防ぎ、手指を媒介とした交差汚染を制御するとともに、1日約70本の脱毛による室内の発塵抑制に有効です。毛髪は微生物源であると同時に発塵源であることを認